

一般社団法人 **日本行動分析学会**
第41回年次大会プログラム

2023年9月1日（金）～3日（日）
立命館大学大阪いばらきキャンパス



大会スケジュール

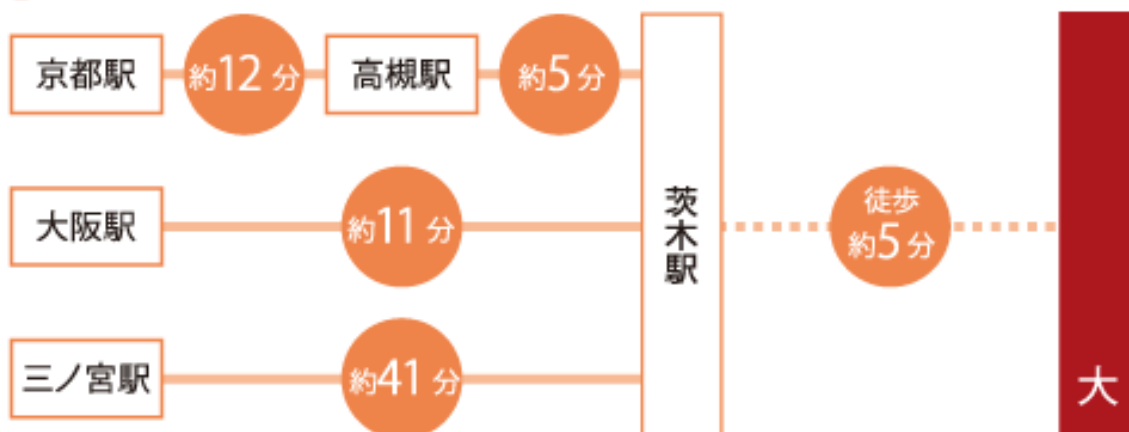
9/1 (金)	8:30	第1会場 (AN310)	11:00	12:00	14:00	14:15	16:15	16:30	18:00
					自主企画シンポジウム1		自主企画シンポジウム3		
		第2会場 (AC330)			自主企画シンポジウム2				
		教室 (AN316)							理事会
		受付							受付

9/2 (土)	8:30	第1会場 (AN310)	9:15	11:15	12:00	13:00	14:00	16:00	16:15	17:30	18:00	20:00
				大会企画シンポジウム		学生会授与式 受賞講演						
		ポスター会場 (B374)			ポスター掲示時間			ポスター1				
		懇親会場 (Garden Terras Lion)										懇親会
		受付										受付

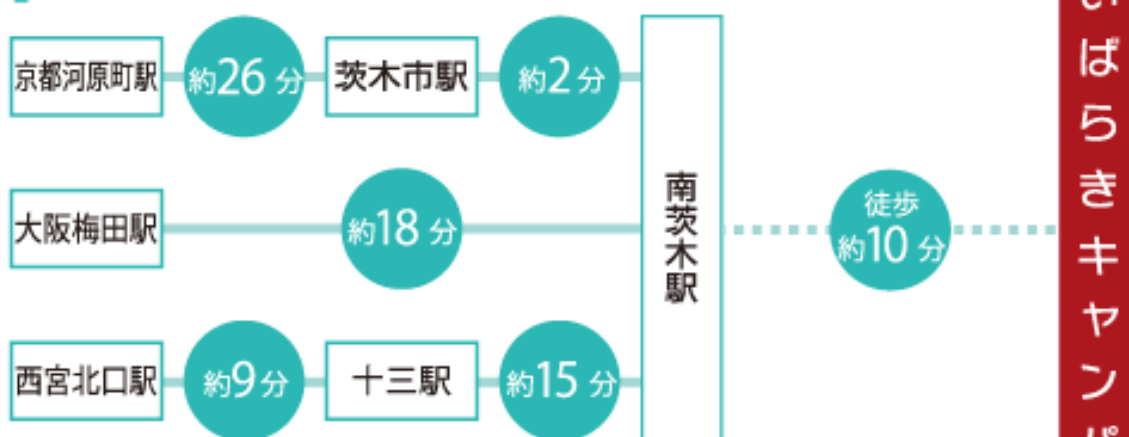
9/3 (日)	8:30	第1会場 (AN310)	9:30	11:30	12:30	14:30	14:45	16:45
				学会企画シンポジウム				公募企画シンポジウム1
		第2会場 (AC330)						公募企画シンポジウム2
		第3会場 (AN210)						公募企画シンポジウム3
	ポスター会場 (B374)			ポスター掲示時間			ポスター2	
	教室 (AN316)						編集委員会	
		受付						受付

立命館大学 いばらきキャンパス アクセス

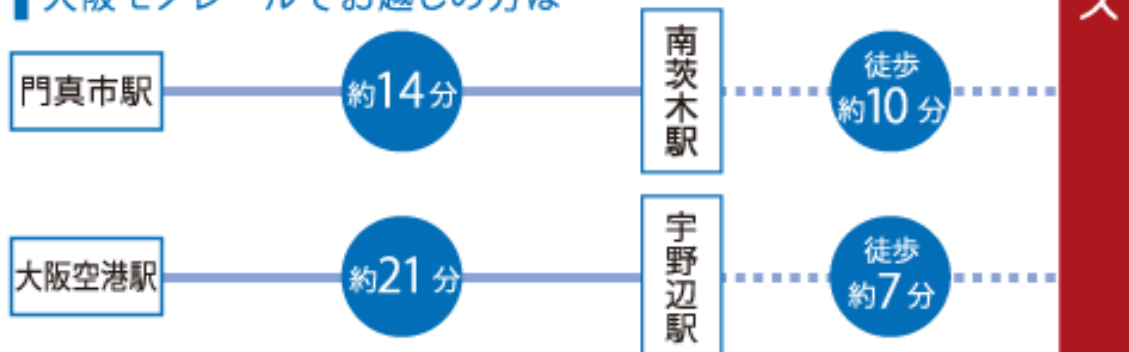
JRでお越しの方は



阪急電鉄でお越しの方は



大阪モノレールでお越しの方は



※所要時間に乗り換え時間は含みません。

会場周辺図



引用元 <https://www.ritsumeai.ac.jp/accessmap/oic/>

会場案内

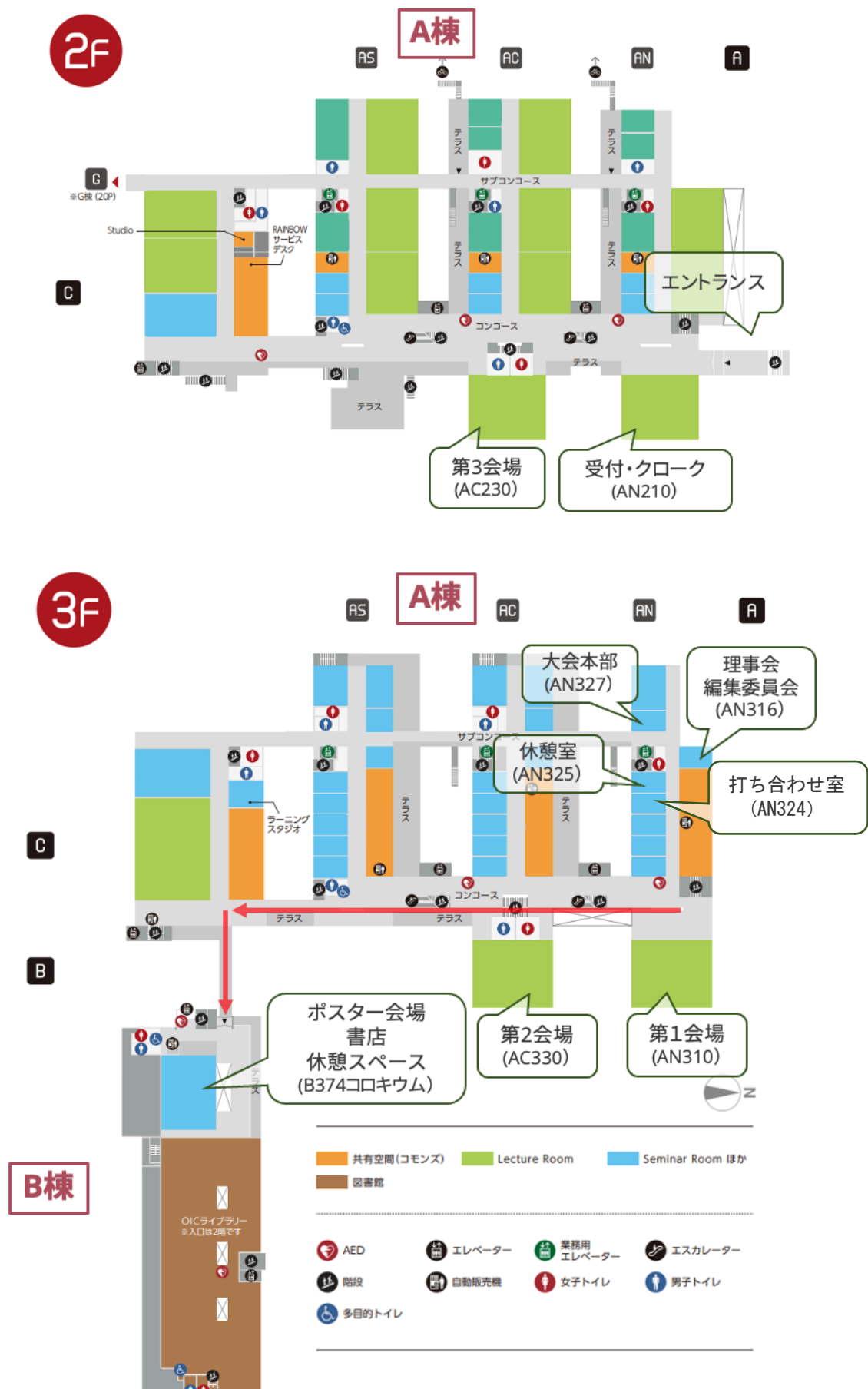
1. キャンパス全体図



2. 学会会場案内図



3. 会場見取り図



ごあいさつ

このたび一般社団法人日本行動分析学会第 41 回年次大会を立命館大学で開催することとなりました。日本行動分析学会は 1983 年に創立されましたので本年は創立 40 年の節目の年にあたります。このような記念の年に年次大会開催をお引き受けするのは光栄なことと存じます。

立命館大学で年次大会を開催するのは、1991 年の第 9 回大会以来、実に 32 年振りとなります。その当時は京都市内の衣笠キャンパスでの開催でしたが、今回は大阪府茨木市のキャンパスでの開催となります。本キャンパスは新大阪駅や大阪（伊丹）空港からのアクセスが良好ですので、新幹線や飛行機でお越しになるにも便利です。2019 年の小樽での年次大会以来、久しぶりの完全対面式での開催です。ぜひ会場にお越しいただき、行動分析学に関する様々な研究に触れ、議論をかわしてください。多くの会員の皆様のご参加を大会準備委員会一同でお待ちしております。

一般社団法人日本行動分析学会第 41 回年次大会準備委員会
委員長 中鹿 直樹

大会参加者へのご案内

1. 会場

大会会場は、立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市岩倉町 2-150)です。会場へのアクセス方法については、この冊子または大会ホームページ(<https://j-aba.jp/meeting/2023/>)をご覧ください。

2. 受付

受付は、9月1日(金)は11:30 から、2日(土)および3日(日)は8:30 から、A棟2階入口で行います。受付にて、お名前とご所属を印刷した参加章をお渡しいたします。参加章は、大会会場内では、はっきりと見えるところにつけてください。**当日の参加受付はありません。必ず予約参加申込の手続きを行ってください。**

3. 懇親会

2日(土)の18:00 からB棟1階で懇親会が開催されます。**当日の参加受付はありません。必ず予約参加申込の手続きを行ってください。**

4. クローク

A棟2階AN210教室に設けております。9月1日(金)および2日(土)は18:15、3日(日)は17:15に終了します。

5. 休憩スペース

A棟3階AN325教室およびB棟3階B374教室周辺を休憩スペースとして設けております。AN325教室は論文交換スペースも兼ねております。

6. 書籍の展示・販売

書籍の展示と販売はB棟3階B374教室にて行います。

7. お呼び出し・携帯電話のご使用

原則として会場内でのお呼び出しはいたしません。また、会場内ではスマートフォン・携帯電話などの電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。

8. 会場内の無線LANについて

会場内では、eduroam回線がご利用いただけます。

9. お食事について

会場内には、大学の生協食堂(OIC Cafeteria: C棟1階)、「みなめんCafé」(A棟1階)、コンビニエンスストア(A棟1階)が営業しております。生協食堂は1日(金)のみの営業です。JRをはさんで大学の向かいにはイオンモール茨木店があり、フードコート(1階)やレストラン街(4階)があります。

10. コピー・ATM

ATMはC棟1階とコンビニエンスストア(A棟1階)にあります。C棟1階のATMは1日(金)および2日(土)のみの営業となります。コピー機はコンビニエンスストア(A棟1階)のものをご利用ください。

11. 駐車場

学内に駐輪・駐車スペースはありません。大学近くのコインパーキングも大変混雑いたしますので、公共交通機関をご利用ください。車いすのご利用など、必要な場合には準備委員会まで予めお申し出ください。

12. 連絡先

大会本部(A棟3階 AN327 教室)または jaba-meeting@j-aba.jp にご連絡ください。

13. その他

立命館大学大阪いばらきキャンパスおよび隣接する岩倉公園での喫煙および飲酒は禁止されております。また、ポスター会場となるB棟での食事や、ペットボトルなどの蓋付き飲料以外のお飲み物はご遠慮ください。ご不明な点があれば、スタッフの名札を着用した係員までお問い合わせください。

シンポジウム関係者へのご案内

1. 打ち合わせ室

A棟3階AN324教室にシンポジウム打ち合わせ室を設けております。

2. パソコン、スクリーンなど

打ち合わせ室およびシンポジウム会場にWindowsパソコンを準備します。また、ブルーレイプレイヤー、DVDプレイヤー、プロジェクタをご利用いただけます。いずれもHDMIおよびVGA入力に対応しております。その他の機材については準備委員会にお問い合わせください。

3. 配布資料

配布資料がある場合は、企画者ご自身でご準備ください。

ポスター発表者へのご案内

1. 会場・時間

9月2日(土)は14:00~16:00の時間帯に、3日(日)は12:30~14:30の時間帯に、B棟3階B374教室(コロキウム)にてポスターセッションを行います。発表者の在籍責任時間は、発表番号が奇数の方は前半の1時間、偶数の方は後半の1時間となります。セッション終了後は各自でポスターの撤去をお願いします。残っているポスターについては、準備委員会で処分いたします。

2. 受付

発表会場デスクにてポスター番号を確認の上、所定のパネルにポスターを貼ってください。

3. 掲示パネル

パネルのサイズは縦210cm、横90cmです。

4. 発表要件

ポスターセッション時間中にポスターを掲示し、所定の在籍時間中に在籍し、参加者と質疑応答することにより、正式発表となります。

5. 筆頭発表者欠席の場合の扱い

筆頭発表者が欠席した場合には、連名発表者の代行を認めます。発表論文集に記載されている筆頭発表者に欠席や交代などの変更があれば、会期前は準備委員会に、会期中は大会本部にご連絡ください。

6. その他

配布資料がある場合は、各自でご準備ください。

論文交換テーブル

日本行動分析学会では、会員の研究交流を推進するために既発表の論文を著者が展示し、希望者に配布するスペース(論文交換テーブル)を年次大会で設けています。大会2日目と3日目(9月2日・3日)に、休憩室(A棟3階 AN325 教室)に用意します。専門誌掲載、紀要論文など発表媒体は問いません。紹介したい自著論文の抜刷(またはコピー)をご持参ください。

原則として、見本の抜刷を1編につき1部準備し、所定の場所で参加者が自由に閲覧できるようにします。抜刷の希望者が所定の名簿に名前と住所またはメールアドレスを記入し、著者が後日送付する方法で運営します。多くの部数をご持参頂ける場合にはこの限りとせず、見本の1部以外は自由にお持ち帰りいただけます。

日本行動分析学会の会員の方へのご案内

1. 理事会

理事会は大会1日目(9月1日)の16:30から、A棟3階 AN316 教室にて行います。

2. 会員集会

会員集会を大会2日目(9月2日)の12:00からA棟3階 AN310 教室にて行います。

3. 学会賞授与式・受賞講演

学会賞授与式・受賞講演を大会2日目(9月2日)の13:00からA棟3階 AN310 教室にて行います。

4. 編集委員会

『行動分析学研究』の編集委員会を大会3日目(9月3日)の11:30からA棟3階 AN316 教室にて行います。

大会プログラム

特別講演

9月2日(土) 16:15~17:30 (A棟3階 AN310)

行動分析とTEA（複線径路等至性アプローチ）、その魅力と共通点

Why Behavioral Analysis and TEA Fascinate Us? : Attractiveness and similarities

講演 サトウ タツヤ (立命館大学)
Tatsuya SATO (Ritsumeikan University)
司会 中鹿 直樹 (立命館大学)
Naoki NAKASHIKA (Ritsumeikan University)

講演要旨

1987年に相関研究で修士号を得た私は、同級生の渡邊芳之(現・帯広畜産大学)と共にミシエルの『Personality and Assessment (邦訳パーソナリティの理論)』を知り、行動主義に興味を持った。折から、春木豊先生が学部授業に非常勤講師としてご出講になり、その縁で佐藤方哉先生と知己を得た。方哉先生は私の氏名(佐藤達哉)が先生と似ていることを喜んでくださった。アメリカのHeward先生も思い出深い。知的障害と視覚障害がある人に、オーディオレシピを提供すれば、その人は朝寝坊ができる、とおっしゃった(意識です)。行動の選択肢が増えるのである。

行動分析の魅力はどこにあるのか。内的実体を仮定する必要がないことだ。日常生活において心を原因にして行動するという解釈をしても良いが、実践において役に立たないどころか邪魔することも多い。ちなみに私が好きな概念は言語的汚染と聞き手制御と嫌子である。

量とは何か? 単位の繰り返しが可能なもの、である。応用行動分析や行動形成の実践においては、介入の効果を量的なものとして表すことが多いし、だからこそ現場での説得力も増す。だが、数えるためのユニットを形成するためには報酬の機能的な定義を行うためのすさまじい知的格闘があり、それは質的研究と通底するものがある。

私は2004年から質的研究法TEA(複線径路等至性アプローチ)を提唱し、多くの学範(ディシプリン)で用いられているが、その核心は径路の記述と外部からの力の記述である。そもそも心理学界隈で生きられた時間(カイロス)を扱っているのは行動分析とTEAしかない。本講演では、質的研究を標榜している私がかつて量的研究や内的実体論から離れて行動分析と出会って感謝していることや、行動分析に期待していること、そして出会った皆さんとの思い出話をしてみたい。

略歴など

東京都立大学助手、福島大学助教授、立命館大学文学部助教授、同総合心理学部教授を経て、現在立命館大学総合心理学部長。日本質的心理学会理事長。博士(文学 東北大学)。主な著書に『日本における心理学の受容と展開』『臨床心理学史』『質的心理学の展望』『TEMではじめる質的研究』『法と心理学への招待』など。専門は文化心理学、質的心理学会、応用社会心理学。

大会企画シンポジウム / 日本行動分析学会創立 40 年記念シンポジウム 2

9月2日(土) 9:15~11:15 (A棟3階 AN310)

実験的行動分析を未来へ繋ぐ

Connecting experimental behavior analysis to the future

企画	日本行動分析学会40年記念事業委員会 J-ABA 40th Anniversary Committee
司会	福田 実奈 (北海道医療大学) Mina FUKUDA (Health Sciences University of Hokkaido)
話題提供	石塚 雅貴 (明星大学) Masaki ISHIZUKA (Meisei University) 片山 綾 (大阪城南女子短期大学) Aya KATAYAMA (Osaka Jonan Women's Junior College) 古野 公紀 (立命館大学) Masanori KONO (Ritsumeikan University) 黒田 敏数 (国際電気通信基礎技術研究所) Toshikazu KURODA (Advanced Telecommunications Research Institute International)
ファシリテーター	福田 実奈 (北海道医療大学) Mina FUKUDA (Health Sciences University of Hokkaido) 中村 敏 (相愛大学) Satoshi NAKAMURA (Soai University)

強度行動障害に対して応用行動分析学は何ができるのか

What can Applied Behavior Analysis do for Severe Challenging Behavior?

企画	強度行動障害に関する支援ガイドライン作成委員会
司会	井上 雅彦 (鳥取大学) Masahiko Inoue (Tottori University)
話題提供	井上 雅彦 (鳥取大学) Masahiko Inoue (Tottori University) 奥田 健次 (学校法人西軽井沢学園) Kenji Okuda (Nishi Karuizawa Gakuen) 岡村 章司 (兵庫教育大学) Shoji Okamura (Hyogo University of Teacher Education)
指定討論	園山 繁樹 (KBS発達教育支援研究所) Shigeki Sonoyama (KBS Research Laboratory for Human Development, Education, and Support)

『行動分析学研究』における質保証：特集号の編集から見えてきた課題とこれからの展望

Quality Control in the Japanese Journal of Behavior Analysis: Perspectives of Action Editors Working on Special Issues

- 企画 仁藤 二郎 (REONカウンセリング)
Jiro Nito (REON Counseling)
奥田 健次 (西軽井沢学園)
Kenji Okuda (Nishi Karuizawa Gakuen)
山本 淳一 (東京都立大学)
Junichi Yamamoto (Tokyo Metropolitan University)
- 司会 奥田 健次 (西軽井沢学園)
Kenji Okuda (Nishi Karuizawa Gakuen)
- 話題提供 大久保 賢一 (畿央大学)
Kenichi Ohkubo (Kio University)
丹野 貴行 (明星大学)
Takayuki Tanno (Meisei University)
仁藤 二郎 (REONカウンセリング)
Jiro Nito (REON Counseling)
- 指定討論 島宗 理 (法政大学)
Satoru Shimamune (Hosei University)

ルール支配行動の基礎と応用を発展させるためにできることは？

What can we do to develop basic and/or applied studies on rule-governed behavior?

- 企画** 井上 和哉 (立命館大学)
Kazuya Inoue (Ritsumeikan University)
茂本 由紀 (武庫川女子大学)
Yuki Shigemoto (Mukogawa Women's University)
- 司会** 茂本 由紀 (武庫川女子大学)
Yuki Shigemoto (Mukogawa Women's University)
- 話題提供** 井上 和哉 (立命館大学)
Kazuya Inoue (Ritsumeikan University)
茂本 由紀 (武庫川女子大学)
Yuki Shigemoto (Mukogawa Women's University)
中村 敏 (相愛大学)
Satoshi Nakamura (Soai University)
紺田 真穂 (立命館大学)
Maho Konda (Ritsumeikan University)
- 指定討論** 大河内 浩人 (大阪教育大学)
Hiroto Okouchi (Osaka Kyoiku University)
谷 晋二 (立命館大学)
Shinji Tani (Ritsumeikan University)

「多様性を尊重する」行動とは何か：行動分析学におけるいくつかのトピック

What is the Behavior of Respecting Diversity: Some Topics in Behavior Analysis

企画	武藤 崇 (同志社大学) Takashi MUTO (Doshisha Univ.)
司会	下山 真衣 (信州大学) Mae SHIMOYAMA (Shinshu Univ.)
話題提供	鈴木 華子 (立命館大学) Hanako SUZUKI (Ritsumeikan Univ.) 武藤 崇 (同志社大学) Takashi MUTO (Doshisha Univ.) 佐々木 銀河 (筑波大学) Ginga SASAKI (Univ. of Tsukuba)
指定討論	村井 佳比子 (神戸学院大学) Keiko MURAI (Kobe Gakuin Univ.)

臨床活動における対象者の well-being に基づく生態学的アセスメントの重要性

Ensuring the Well-being of Clinical Client through Ecological Assessment

- 企画 杉山 尚子 (MSPO医療安全高等教育院)
Naoko Sugiyama (Medical Safety Promotion Organization)
- 司会 杉山 尚子 (MSPO医療安全高等教育院)
Naoko Sugiyama (Medical Safety Promotion Organization)
- 話題提供 井上 雅彦 (鳥取大学医学部)
Masahiko Inoue (Tottori University)
- 奥田 健次 (学校法人 西軽井沢学園)
Kenji Okuda (Nishi Karuizawa Gakuen)
- 久留宮 由貴江 (The Chicago School of Professional Psychology)
Yukie Kurumiya (Graduate and Professional Studies at The Chicago School)
- 山本 央子 (ヤマザキ動物看護職短期大学)
Nakako Yamamoto (Yamazaki Professional College of Animal Health Technology)

実験的行動分析におけるポスト・スキナーの行動主義

Post-Skinnerian Behaviorisms in the Experimental Analysis of Behavior

- 企画 丹野 貴行 (明星大学)
Takayuki Tanno (Meisei University)
松井 大 (北海道大学)
Hiroshi Matsui (Hokkaido University)
- 司会 丹野 貴行 (明星大学)
Takayuki Tanno (Meisei University)
- 話題提供 松井 大 (北海道大学)
Hiroshi Matsui (Hokkaido University)
丹野 貴行 (明星大学)
Hiroshi Matsui (Hokkaido University)
澤 幸祐 (専修大学)
Kosuke Sawa (Senshu University)
- 指定討論 福田 実奈 (北海道医療大学)
Mina Fukuda (Health Sciences University of Hokkaido)
三田村 仰 (立命館大学)
Takashi Mitamura (Ritsumeikan University)

学校現場で行動分析家は仮説的構成概念をいかに翻訳するべきか

How should behaviorists translate hypothetical constructs in the school setting?

- 企画 杉本 任士 (北海道教育大学)
Tadashi SUGIMOTO (Hokkaido University of Education)
- 司会 村井 佳比子 (神戸学院大学)
Keiko MURAI (Kobe Gakuin University)
- 話題提供 榊原 岳 (八街市立八街中学校)
Gaku SAKAKIBARA (Yachimata Junior High School, in Yachimata)
河村 優詞 (八王子市立宇津木台小学校)
Masashi KAWAMURA (Utsukidai Elementary School, in Hachioji)
上運天 美都子 (日本大学大学院)
Mituko KAMIUNTEN (Graduate School of Nihon university)
- 指定討論 中村 敏 (相愛大学)
Satoshi NAKAMURA (Soai University)
福田 実奈 (北海道医療大学)
Mina FUKUDA (Health Sciences University of Hokkaido)

ポスター発表 在席責任時間 奇数：前半1時間，偶数：後半1時間

ポスター発表1 9月2日(土)14:00~16:00 (B棟3階B374教室)

- | | | |
|-------|--|----------------------------|
| P1-01 | パーセンタイルスケジュールの参照範囲が長い反応間時間の形成に及ぼす効果 | ○ 折原 友尊
丹野 貴行 |
| P1-02 | 継時見本合わせ手続きを用いたハトにおける対称律の再現性の検証 | ○ 石塚 雅貴
丹野 貴行 |
| P1-03 | 「幸せを感じる」と報告された活動への従事時間と，一日の主観的幸福感の関係についての検討：「幸せ」というタクトの制御変数とは？ | ○ 熊崎 菜々子
松田 壮一郎 |
| P1-04 | IoTによる映像提示が社会人の自己学習に与える効果：情報技術による家のスキナーボックス化 | ○ 森 達也
杉山 尚子 |
| P1-05 | 親にしつこくまとわりつく自閉スペクトラム症児に対する家庭での一人遊び支援 | ○ 近藤 瑞季
笹田 夕美子
奥田 健次 |
| P1-06 | 音声表出に困難を抱える自閉スペクトラム症児における拡大・代替コミュニケーション手段間の選択 | ○ 金田 萌花
佐々木 銀河 |
| P1-07 | 教室内外で徘徊をしていた小学生の着席行動の支援：トークン・エコノミー法と言語賞賛を用いた行動コンサルテーション | ○ 田原 太郎 |
| P1-08 | 強度行動障害児の給食場面における行動支援 | ○ 村浦 新之助 |
| P1-09 | 高等学校への学校規模ポジティブ行動支援の導入が生徒指導件数に及ぼす効果 | ○ 松山 康成
下條 満代 |
| P1-10 | 登校しぶり行動の機能的アセスメントと保護者による評価 | ○ 山田 達人 |
| P1-11 | 自閉スペクトラム症児と定型発達児における言語コミュニケーション行動の比較：オンライン発達行動支援のための基礎的研究 | ○ 東 美穂
山本 淳一 |
| P1-12 | 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する随伴模倣が自発的なコミュニケーションに与える効果 | ○ 斎藤 瑞穂
高浜 浩二 |
| P1-13 | 大学院生の先延ばし行動に対するACTプログラムの効果 | ○ 香月 みかん
首藤 祐介
三田村 仰 |
| P1-14 | 社会的妥当性に関する評価の傾向とその課題：行動分析学研究(1986-2022)を対象としたレビュー | ○ 河村 優詞
中村 敏
杉本 任士 |
| P1-15 | 学校と保護者をつなぐペアレント・トレーニング：教員が主体となって実施できるプログラムを目指して | ○ 山本 雅也
橋本 浩志 |
| P1-16 | 認知症の行動・心理症状に対する介護職員への行動コンサルテーション：ベースライン期の行動観察のみで終結する事例 | ○ 石川 愛
武田 朱公
山中 克夫 |
| P1-17 | 手術室の器械出し看護師における清潔野の行動分析 | ○ 野瀬 珠美 |

		飛田 伊都子 戸田 満秋 住友 順子 志摩 久美子
P1-18	自閉スペクトラム症児への日常環境発達行動支援の効果：多文化家族を対象とした対面支援研究	○ 韓 天一 張 瑜 山本 淳一
P1-19	日中を対象とした遠隔ペアレント・トレーニングの効果：単一事例データのメタ分析に基づいて	○ 金 喬 米山 直樹
P1-20	価値変化と反応復活：強化子低価値化効果の検証	○ 藤巻 峻 菅原 道代 神前 裕
P1-21	待つだけの場面と待ち時間を埋める行動が求められる場面間の選択	○ 久保 尚也
P1-22	Peak Interval 手続きにおけるハトの計時行動の分析	○ 古野 公紀
P1-23	ハトにおけるリスク選択：体重変動と強化量分布の効果	○ 佐伯 大輔
P1-24	EEG マイクロステートを標的としたオペラント条件づけ：シェイピング導入に向けた準備と考慮点について	○ 黒田 敏数
P1-25	チョコレート手がかり提示が摂食量に及ぼす効果	○ 福田 実奈
P1-26	足元への送風が空調リモコン操作に及ぼす影響：IoT システムを用いた実験的検討	○ 藤森 司 太田 裕之 島宗 理
P1-27	行動マネジメントによるコーヒー摂取コントロールの可能性：ルール支配行動と疑似好子の併用	○ 中尾 将大
P1-28	学業問題の実験的分析による効果的な指導法の選択：通級指導教室に通う児童の計算スキルを対象として	○ 野田 航
P1-29	特別支援学校中学部における Prevent-Teach-Reinforce (PTR) モデルに基づく事例検討の効果	○ 田中 善大 大対 香奈子 庭山 和貴
P1-30	児童の自己選択・自己決定を引き出す授業づくり：物の永続性と主体的な手の動きを中心とした学習を通して	○ 小田 亨
P1-31	公立中学校における学校規模ポジティブ行動支援 (SWPBS) 第1層支援の効果：問題行動発生率及び子どもの強さと困難さアンケートを指標として	○ 鳥飼 正葵 庭山 和貴
P1-32	重度知的障害のある ASD 児の不応行動を改善するためのポジティブ行動支援：興味の対象を用いることが絵カードの自発的利用を促す効果	○ 八木原 清花 竹内 康二
P1-33	児童同士でポジティブ行動支援を実践するための教師の支援に関する検討	○ 岩島 陽 平澤 紀子
P1-34	放課後児童クラブにおけるおやつ準備行動への相互依存型集団随伴	○ 澁谷 亜耶音

	性の適用		中村 徳子
P1-35	ひきこもり状態にあった ASD 青年への支援：興味関心のあることに だけだけ応えられるか	○	竹中 正彦
P1-36	母親を巻き込んだ摂食障害患者の食行動への介入	○	石黒 美幸
P1-37	大学生のネガティブ思考に対する介入パッケージの効果：思考記録表 への記入内容に対する縦断的評価	○	松田 壮一郎 柄澤 輝 菅原 大地
P1-38	めまいによる歩行の困難があるクライアントに対する内部感覚エク スプロージャーと直接観察による行動測定	○	瀬口 篤史
P1-39	若者が持つエイジズム的思考への脱フュージョンエクササイズによ る介入：IRAP を用いて効果を確認することの課題と可能性	○	感應 菜摘美 中鹿 直樹
P1-40	Prevent-Teach-Reinforce (PTR) モデルに基づく問題行動の事例検 討：特別支援学校小学部における 2 事例を対象として	○	米田 遊 庭山 和貴 田中 善大 大対 香奈子
P1-41	三項随伴性に基づいた子どもと保育者の行動の記述を標的行動とし た研修の効果	○	植木 伽奈

ポスター発表 2

9月3日(日) 12:30~14:30 (B棟3階 B374教室)

- | | | |
|-------|--|---|
| P2-01 | 高確率大報酬条件を含む確率割引における双曲線関数モデルを用いたマウス選択行動の検討 | ○ 水流 百香
榎田 佳菜
竹明 玲菜
吉田 萌
久保 浩明
永井 友幸
森寺 亜伊子
中本 百合江
吉井 光信
麦島 剛 |
| P2-02 | ADHD モデルマウスの DRL 事態での衝動的反応における脳内自己刺激と餌ペレット強化子の比較検討 | ○ 竹明 玲菜
榛葉 俊一
吉井 光信
久保 浩明
水流 百香
森寺 亜伊子
井上 真澄
東華 岳
麦島 剛 |
| P2-03 | バイオリジカルモーション刺激に対する幼児の選好：同時選択テストの方法を援用した試み | ○ 長谷川 福子
黒田 敏数 |
| P2-04 | 高確率大報酬条件を含む確率割引におけるマウス選択行動の報酬量と報酬確率の感受性 | ○ 麦島 剛
久保 浩明
永井 友幸
水流 百香
吉田 萌
竹明 玲菜
平田 うの
森寺 亜伊子
東 華岳
井上 真澄
中本 百合江
吉井 光信 |
| P2-05 | 遅延価値割引と環境配慮行動および買い物行動の関係 | ○ 青山 謙二郎 |
| P2-06 | 報酬の損失を考慮したセルフ・コントロール選択パラダイムの検討：目標設定の効果 | ○ 片山 綾 |
| P2-07 | 大学授業の冒頭に行う集団あいさつ行動の分析：あいさつ行動の継続と中断に伴う感情的反応の変化を中心に | ○ 平岡 恭一 |

P2-08	不確実状況におけるリスク志向：教示による操作が価値割引に与える影響の検討	○ 石井 大海 吉野 俊彦 山下 博志
P2-09	視運動刺激によって誘発される瞬間的重心動揺の馴化	○ 山河 慶
P2-10	累進比率強化スケジュールを用いた高コスト大強化子選好度の測定	○ 田島 裕之
P2-11	中学生および高校生におけるセルフコントロールと利他性：情動調整とストレスとの関連	○ 林田 菜月 空間 美智子 井垣 竹晴
P2-12	青年期の子どもをもつ保護者に対するペアレントトレーニングによる子どもの自発行動を促す効果	○ 永富 大舗 斉藤 正己 立本 惇子
P2-13	大学生の韓国語学習における 3C 学習法およびグラフフィードバックの有効性の検討	○ 仲山 早苗 三升 巴菜 米山 直樹
P2-14	ASD のある高校生に対する刺激等価性の枠組みを用いたピアノ演奏指導	○ 外川 輝 高浜 浩二
P2-15	幼稚園児の適切なマスク着用行動におけるフィードバック効果の検討	○ 笹田 夕美子 奥田 健次
P2-16	小学2年生のASD児における音声教材を用いたかな単語読みの流暢性に対する効果	○ 丹治 敬之 木下 豪 内田 佳那
P2-17	ASD 児の親へのオンラインによるペアレント・トレーニングの効果：PECS を用いた要求言語行動の形成	○ 小笠原 忍 皆川 泰代 山本 淳一
P2-18	知的障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する社会的参照行動の成立条件に関する検討	○ 石塚 祐香 江崎 夏生 野呂 文行
P2-19	自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童に対する自己支援法を学習するためのレディネスの把握：児童がもつ支援方法のストック数と分類に着目して	○ 宮崎 光明
P2-20	小学校通常学級の漢字読み書き指導における刺激ペアリング手続きの有効性の検討	○ 松下 浩之
P2-21	構造化された遊びにおける親子の行動の RTK-GNSS による定量評価	○ 塚本 匡 辻 愛里
P2-22	ASD 児に対する刺激シェイピング手続きがアルファベット文字弁別に与える効果	○ 若林 風佳 高浜 浩二
P2-23	ASD 幼児に対する多刺激非置換提示法に基づく選択行動支援	○ 渥美 瑠奈 田口 典子 高浜 浩二

P2-24	ASDのある高校生に対するセルフモニタリングを用いた面接指導	○ 野地 柊汰 若林 風佳 高浜 浩二
P2-25	ASDのある高校生の余暇活動における言語行動の推移	○ 亀井 幸穂 外川 輝 高浜 浩二
P2-26	重度知的障害者のトイレ要求行動の自発促進の試み	○ 中村 優作 日上 耕司
P2-27	SNS を利用した GO/NO-GO 型英単語学習法の開発と効果検証： Instagram で中学生は自発的に勉強するようになるのか？	○ 田中 友麻 竹内 康二
P2-28	外出が困難となっていた過敏性腸症候群の女性に対するエクスポー ジャーを伴う外出訓練：アプリを利用した自動記録による効果検証	○ 仁藤 二郎 奥田 健次
P2-29	精神科デイケアに通所していた ASD 女性への行動契約による就労支 援	○ 鳴山 東志子 川上 英輔 竹澤 律子 久保 尚美 伊豆 栄美 北村 直也
P2-30	夜中の過剰な連絡行動が問題となった女性への介入：適切な言語反応 を誘発する言語刺激を同定し活用した事例	○ 今野 高志
P2-31	強迫性障害のブラシ恐怖症に対する曝露反応妨害法による介入	○ 本田 暉 仁藤 二郎
P2-32	精神科外来における生活記録表を用いたセルフモニタリングの効果 (4)：被害念慮を主訴とした ASD 者に対する行動活性化	○ 川上 英輔 深井 光浩
P2-33	統合失調症患者への行動契約を用いた就労準備支援	○ 竹澤 律子 川上 英輔 深井 光浩 北村 直也
P2-34	大学生を対象とした多義文の推敲訓練：見本合わせ課題と構成反応見 本合わせ課題を用いて	○ 島宗 理
P2-35	タクトトレーニングと実践トレーニングを用いたフランス語学習の 効率性の検討	○ 巖 香蓮 荻野 咲弥 米山 直樹
P2-36	過剰な舐め行動が問題となった犬とその飼主を対象に 実施した機能的アセスメントに基づく介入：獣医行動診療における機 能的アセスメントの効果	○ 室井 尚子
P2-37	継次的刺激ペアリング手続きを通じた英語学習支援音素意識と問題 行動の変容	○ 大森 幹真 高橋 裕子
P2-38	上司による部下の発言意図の多面的な推測に及ぼす多例見本とフィ ードバックの効果：上司のコミュニケーションスキル改善プログラム	○ 近野 恵 白石 壮大

の開発にむけて

井手 健太
紺野 剛史
松田 壮一郎
島宗 理

P2-39 Ferster と Skinner(1957)の回路図に基づく実験装置の復元

○ 藤 健一

P2-40ペアレントトレーニングの効果測定：親子の片づけ場面の行動観察を
通して2

○ 中村 友保
塩田 心

一般社団法人行動分析学会第41回年次大会

協賛企業ご芳名 (五十音順, 敬称略)

株式会社 学苑社

株式会社 北大路書房

株式会社 金剛出版

株式会社 昭和堂

株式会社 ブックマン京都

新装版 ことばと行動

言語の基礎から臨床まで

日本行動分析学会 編

浅野俊夫, 山本淳一 責任編集/武藤 崇, 吉岡昌子 新装版編集

言語聴覚士, 臨床心理士, 公認心理師だけでなく, 教育・福祉の現場に関わる人にも役立つ, 行動分析学と言語の発達を知る上で必須の一冊が復刊! 原書刊行後20年間の行動分析学の進展もわかる書きおろし解説も収録。

A5判 並製 400頁 定価4,620円



機能分析心理療法：臨床家のためのガイドブック

M・サイ, R・J. コーレンバーグ, J・W. カンター,

G・I. ホルマン, M・P・ラウドン 著

杉若弘子, 大河内浩人, 河越隼人, 木下奈緒子 訳

機能分析心理療法 (FAP) の要点をまとめたガイドブック。FAPのアプローチの中核となる原則、方法、ビジョンを紹介し、臨床家にとってFAPの各技法をいつ、どのように適用していけばいいのかわかりやすく説明していく。

A5判 並製 208頁 定価3,300円



認知行動療法と治療関係

N・カザンツィス他 著/坂野雄二他 監訳 認知行動療法の効果的な実践には、クライアントとの強固な信頼関係を結ぶことが第一である。本書ではそのためのスキルを解説する。 B5判 並製 264頁 定価4,620円

ADHDの若者のためのマインドフルネスワークブック

M・S・カーヒル 著/中野有美 監訳 ADHDをもつ若者たちが、より健康で幸せな生活を送るために、マインドフルネスの学習・実践の一連の流れが学べるワークブック。 A5判 並製 204頁 定価2,970円

怒りを鎮める認知行動療法ワークブック

W・J・クナウス 著/堀越 勝 監訳 あなたにとって有害な怒りに気づき、怒りの問題から少しずつ解放されていくために取り組む、認知行動療法エクササイズ集。 B5判 並製 230頁 定価3,300円

マインドフルな先生，マインドフルな学校

K・ホーキンス 著/伊藤 靖他 編訳 本書は教師，カウンセラー，心理士，保護者といった，子どもの教育に携わるすべての方に最適なマインドフルネスのガイドブックです。 A5判 並製 304頁 定価3,520円

臨床心理学

Vol.23 No.4 特集「恥」は敵か？味方か？
増刊第15号 あたらしいジェンダースタディーズ
臨床心理学の今を伝える専門誌 B5判160頁/年6回
(隔月奇数月) 発行/定価1,760円(増刊2,640円)/年
間購読料13,200円(増刊含む, 送料小社負担)

精神療法

Vol.49 No.4 特集 医療領域でのソーシャルワークの多職種協働実践
増刊第10号 グループで日常臨床を変える
わが国唯一の総合的精神療法研究誌 B5判130頁/年
6回(隔月偶数月) 発行/定価2,200円(増刊3,080円)/
年間購読料16,720円(増刊含む, 送料小社負担)

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 e-mail eigyo@kongoshuppan.co.jp
Tel. 03-3815-6661 Fax. 03-3818-6848 価格は税込(10%)表示です。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
https://www.kitaohji.com(価格税込)

ドムヤンの学習と行動の原理 [原著第7版]

M. ドムヤン著 漆原宏次、坂野雄二監訳 B5上製・424頁・定価7920円 学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト、待望の邦訳。行動の誘発、強化、制御、消去、変容に関わる学習の原理、およびその広範な活用について、神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

感情制御ハンドブック

一基礎から応用そして実践へー 有光興記監修 飯田沙依亜、榊原良太、手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり、社会・人格・認知・発達・臨床・教育、さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

記憶現象の心理学

一日常の不思議な体験を探るー A. M. クリアリー、B. L. シュワルツ編 清水寛之ほか訳 A5・560頁・定価6380円 デジャヴ現象や「喉まで出かかっているのに出てこない」状態等、人間の記憶の不思議な現象に焦点を当て、逆照射的に記憶のメカニズムに接近。これまでの研究知見に疑問を呈する。

未来思考の心理学

一予測・計画・達成する心のメカニズムー G. エッティンゲンほか編 後藤崇志、日道俊之、小宮あすか、楠見 孝監訳 A5上製・720頁・定価11000円 目標実現のための心の仕組みを人に固有の「将来を模索し判断する力」を切り口に解説。認知、社会、教育、健康等の分野にも展開。

代替行動の臨床実践ガイド

一「ついやってしまう」「やめられない」の〈やり方〉を変えるカウンセリングー 横光健吾、入江智也、田中恒彦編 A5・272頁・定価3080円 夜更かし、ギャンブル、飲酒、風俗通い、リストカット、家族間のコミュニケーション不全……。問題行動を減らし「望ましい行動」を増やすためのノウハウを紹介。

エビデンスに基づく認知行動療法スーパービジョン・マニュアル

D. L. ミルン、R. P. ライザー著 鈴木伸一監訳 A5・352頁・定価5940円 スーパービジョンの進め方を、エビデンスをふまえた推奨事項に取りまとめて系統的に解説。臨場感あふれる18本の実演動画の全訳を収録した、CBTを効果的に用いる能力、困難への適応力を高める一冊。

エピソードで学ぶ統計リテラシー

一高校から大学、社会へとつながるデータサイエンス入門ー 山田剛史、金森保智編著 A5・216頁・定価2310円 朝食を食べないと学力は低下するのか？ ガチャでレアキャラが当たる確率は？ 身近なエピソードや問いから統計に関する基本的な知識・スキルを学び、数学的センスを養う。

Rを使った〈全自動〉ベイズファクタ分析

一js-STAR_XR+でかんたんベイズ仮説検定ー 田中敏、中野博幸著 A5・244頁・定価3520円 フリーソフトjs-STAR_XR+が拡張され、帰無仮説検定の代替案として近年関心が高まるベイズ仮説検定に新たに対応。データ分析から結果の書き方まで懇切にガイド。巻末には半期や全7回の授業用シラバスを収録。

シリーズ 臨床心理学

太田信夫監修/高橋美保、下山晴彦編集 定価2200円

マインドフルネスストレス低減法

J. カバットジン著/春木 豊訳 定価2420円

ナラティブ・セラピーのダイアログ

国重浩一、横山克貴編著 定価3960円

公認心理師 標準テキスト 心理学的支援法

杉原保史、福島哲夫、東 斉彰編著 定価2970円

レベルアップしたい実践者のための事例で学ぶ認知行動療法テクニックガイド

鈴木伸一、神村栄一著 定価2530円

ナラティブ・メディスンの原理と実践

R. シャロン他著/斎藤清二他訳 定価6600円

心理学ベーシック なるほど！心理学面接法

三浦麻子監修/米山直樹、佐藤 寛編著 定価2640円

愛着関係とメンタライジングによるトラウマ治療

J. G. アレン著/上地雄一郎、神谷真由美訳 定価4180円

グラフィック・メディスン・マニフェスト

MK. サーウィック他著/小森康永他訳 定価4400円



発達障がいといじめ

発達の多様性に応える予防と介入

小倉正義【編著】
● A5判／定価 2970 円（税込）

いじめへの「認識と実態」「予防」そして「介入」まで。



幼稚園や学校で話せない子どものための
場面緘黙支援入門
園山繁樹【著】 ●四六判／定価 1760 円（税込）
「困った場面」の解消方法や、「話せる」
に向けた具体的な支援を紹介する。

保育者ができる 気になる行動を示す 幼児への支援

応用行動分析学に基づく実践ガイドブック

野呂文行・高橋雅江【監修】 永富大輔・原口英之【編著】
● B5判／定価 2090 円（税込）

応用行動分析学で解決する保育場面 32 のケース。



いじめ防止の3R

すべての子どもへのいじめの予防と対処

ロリ・アーンスパージャー【著】
奥田健次【監訳】 冬崎友理【訳】
● A5判／定価 3300 円（税込）



VB 指導法

発達障がいのある子のための
言語・コミュニケーション指導

メアリー・リンチ・パーベラ【著】 杉山尚子【監訳】 上村裕章【訳】
● A5判／定価 3740 円（税込）

知的障害のある人への心理支援

思春期・青年期におけるメンタルヘルス

下山 真衣【編著】
● A5判／定価 2420 円（税込）



施設職員 ABA 支援入門

行動障害のある人へのアプローチ

村本浄司【著】
● A5判／定価 2750 円（税込）



学苑社

〒 102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム 5F
<https://www.gakusha.co.jp/> TEL 03-3263-3817 FAX 03-3263-2410



一般社団法人行動分析学会第41回年次大会 準備委員会

委員長 中鹿 直樹
事務局長 古野 公紀
委員 首藤 祐介
井上 和哉

大会事務委託 有限会社 リファレンス

一般社団法人日本行動分析学会第41回年次大会発表論文集

発行者 日本行動分析学会第41回年次大会準備委員会

委員長 中鹿 直樹

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150

立命館大学総合心理学部

メールアドレス:jaba-meeting@j-aba.jp

ホームページ:<http://www.j-aba.jp/meeting/2023/>